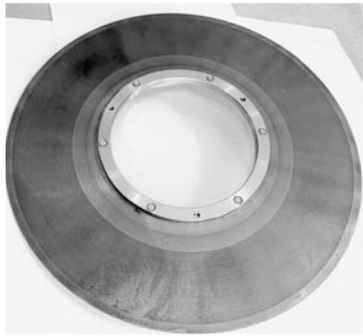


プラ再生用レーザーフィルター

コスト3割削減

奥谷金網 豪社と開発

【神戸】奥谷金網製作所（神戸市中央区、奥谷智彦社長、078・351・2531）は、純正品に比べて2〜3割安価なプラスチック再生用のレーザーフィルターを豪アクションレーザー（AL、シドニー）と共同開発した。月内に国内外のプラスチック再生工場に販売する。1枚当たりの消費税抜き価格は18万円から、3年後に年間売上高5000万円を目指す。



レーザーフィルターは、純正品に比べ、生産コストを削減した。純正フィルターを1カ月で交換する再生工場の場合、フィルターを共同開発したプラスチック再生用レーザーフィルター

を開発品に変更すると1台当たりのコストは年間100万円以上抑えられるという。耐久性も純正フィルターと同程度という。フィルターの孔径サイズは400μm（マイクロは100万分の1）から90μmまで8サイズをそろえる。AL

Lが製造し、奥谷金網は日本とアジアで販売する。同フィルターは回収

プラスチックをペレットに再生する際、押出機に取り付け、残ったゴミなどの不純物を除去する。微細レーザースクリーンメーカーのALと、総合金網・パンチングメタルメーカーの奥谷金網のノウハウを融合し、コストの低減を実現した。プラスチックの環境問題が近年高まる中、プラスチック再生事業の拡大を見据え共同開発した。

奥谷金網は2019年3月にALから日本と中国市場における微細レーザースクリーン製品の独占販売権を得。AL製品を扱う一方、ALは奥谷金網のパンチングメタル製品などを豪州で販売している。